

巻 頭 言



岡山市長 大森 雅夫

国際的に開かれた多文化共生のまち・岡山 を目指して

あけましておめでとうございます。令和になって初めての年明けとなります。皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと、謹んでお喜び申し上げます。

本年は2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される年であり、海外から多くの方が訪れることと思います。岡山市もブルガリア共和国のホストタウンとして登録されており、選手の皆様をおもてなしできるよう準備を進めているところです。

さて、昨年の岡山市を振り返ってみますと、10月19日、20日にはアジア圏で初となる「G20 岡山保健大臣会合」が開催され、主要20か国に加え、招待国や国際機関など34の代表団、総勢200名を超える会合関係者が岡山市に集結し、高齢化、健康危機への対応など、保健医療分野における世界的な課題について活発な議論が交わされました。官民を挙げてのおもてなしを通じて、岡山の豊富な医療・福祉資源や歴史・文化遺産などの多彩な魅力を世界に発信できたのではないかと実感しております。

また、「SDGs 未来都市」である岡山市では、SDGs達成に向けて学びの深化や人材育成を目指してESDを推進することとしており、昨年11月にはその取組のひとつとして「ESD 教師教育世界大会」が開催されました。こうした国際レベルの会議の開催実績を通じて、国際会議の開催都市としての認知度を高めることができたものと考えております。

市内の国際化の状況をみますと、昨年4月の入管法改正の影響もあり、岡山市で働き生活する外国人市民は今後さらに増加し続ける見通しであり、また平成30年7月に西日本を襲った豪雨災害では、災害時における外国人市民への支援が課題として顕在化したところです。このように多様化する外国人市民ニーズに対応するため、岡山市では「岡山市多文化共生社会推進プラン」に基づき様々な施策を推進しており、昨年6月には、行政手続きや生活相談を多言語で一元的に対応する外国人総合相談窓口を設置しました。また、多くの外国人市民が抱える日本語に係る課題への対策の一つとして、教育現場では日本語指導が必要となる児童・生徒のための教員、日本語指導支援員の加配を行っています。さらに、災害時に外国人市民へ情報をよりスムーズに伝えるため、防災情報メールを多言語化するなど、多様な取組を進めています。

中国の故事で「地の利は人の和に如かず」という言葉があります。岡山市は地理的には中四国のクロスポイントに位置し、交通の利便性に優れていますが、外国人市民も含め、市民全員が協力して暮らしやすさを高めていくことにより、初めて地の利が生きてくるものと考えております。これからも、岡山市の魅力を世界に向けて発信するとともに、外国人も含めた市民へきめ細かい行政サービスを提供することにより、国内外から多くの方が訪れ、誰もが住みよい多文化共生のまちになるよう努めてまいります。